2026年11月吉日
富士ホールディングス株式会社作成
※資料内画像の転載・ご使用はご遠慮ください。

金属廃材に新たな価値を生み出すFUJIOHの資源循環
アップサイクルとリサイクルで持続可能な社会の実現に貢献

2026年11月9日（月）から20日（金）まで開催された「COP31[※1]」では、廃棄物の管理が気候変動対策において重要な役割を担うとの考えから、行動アジェンダの一つに「ゼロ・ウェイスト」が掲げられていました[※2]。

廃棄物削減が重要視されるなかで、一般家庭用レンジフード国内シェアNo.1[※3]の富士工業株式会社（神奈川県相模原市／厨房機器製造・販売／代表取締役社長 柏村浩介 以下、FUJIOH[※4]）は、ものづくりに携わる企業として資源循環を促進する活動を実施しています。

例えば、生産工程で発生する金属廃材を活用したベルづくりワークショップの開催やノベルティの配布により、廃材に新たな価値を付加しています。また、工場から排出される金属廃材や塗料の廃粉は外部事業者によるリサイクルをおこない、廃棄物の削減と資源の有効利用を通じて、責任あるものづくりを実践しています。

※1 トルコで開催された国連気候変動枠組条約第31回締約国会議
※2 出典：https://cop31.tr/action-plan/zero-waste
※3 出典：シェア 61.8%・富士経済「住宅建材 / 新築・リフォーム市場トレンドデータ便覧 2026」（2025年度実績）
※3 富士工業グループは、レンジフード国内トップシェアメーカーです。（ODM 生産品を含む）
※4 FUJIOHは、富士工業グループの企業ブランドです。

FUJIOHが取り組む廃材活用

①金属廃材から生まれたベルづくりワークショップ



地域住民や社員を対象に開催している自社イベント「FUJIOH感謝祭」で、工場から排出された金属廃材の一部（約4.3kg）を再利用したベルづくりワークショップを実施し、金属廃材の活用先を生み出すことでアップサイクルを促進しました。ワークショップには、約100名の子どもや保護者が短冊に絵を描くなどして参加し、廃材が再加工される工程をパネルで紹介することで資源循環の理解醸成につなげました。廃材のアップサイクルはSDGsのゴール12に、子どもたちが資源循環について学ぶ機会の創出は、ゴール4につながります。

従来、製造工程で発生する真鍮の金属廃材をベルとして再加工し、来訪者が自由に持ち帰れる形で配布していました。しかし、ベルを持ち帰る来訪者は一部に限られており、ベルに関心を持つ人へ広く行き渡っている状況ではありませんでした。そこで、ベルの活用の幅を広げるとともに、廃材の有効利用を推進しました。





左：真鍮の廃材を再加工して製作したベル　右：参加者が短冊に絵を描いて完成させたオリジナルベル



ベルづくりを楽しむ子どもたちの様子

■参加者の反応
ベルが工場で発生した廃材から作られていることを紹介したところ、参加者からは「廃材がベルになるなんて驚いた」「廃材から作られているのにベルの音がきれい」といった声が寄せられました。

＜報道関係者お問い合わせ先＞
富士ホールディングス株式会社　コミュニケーションデザイングループ
TEL: 042-718-5661 E-MAIL: fujioh.cdg@fujioh.com

②金属廃材から生まれたしおりのノベルティ

製造工程で発生した金属廃材を再加工したしおりをノベルティとして、工場見学に訪れた小学生に配布しています。廃材の新たな活用方法を伝えることで、アップサイクルや資源循環について考えるきっかけを提供しています。しおりは鉄板をレーザー加工で打ち抜き、繊細な模様を施したデザインとすることで、工場見学の記念品として子どもたちに親しまれています。





金属廃材から生まれたしおり

③金属・塗料廃材のリサイクル

FUJIOHでは、生産工程で排出される金属廃材を外部事業者に委託してリサイクルしています。2025年度にリサイクルした金属の量は約4,273tに達しました。これは、普通乗用車に換算すると、2,136台分です※5。また、塗料の廃粉はセメントブロックの原料として再資源化しており、リサイクル率100%を達成しています※6。廃材のリサイクルを通して、メーカーとして環境に配慮した事業活動を進めています。

※5 普通乗用車約2,136台分は、リサイクルした金属量4,273tを、警察庁「車両総重量による大きさの比較」における普通乗用車の総重量「2トン弱」を2tとして換算し、当社算出。
※6 2025年度実績

FUJIOHについて

FUJIOHは、1941年の創業以来、ものづくりにこだわり続け、現在では一般家庭用レンジフード国内シェアNo.1※7のメーカーとして事業を展開しています。近年は、レンジフード開発で培った知識・技術を活かし、業務用製品の開発・生産に加え、産学連携や企業間共創などを展開しています。

また、FUJIOHはSDGsの達成に向けた活動を推進しており、環境に配慮したものづくりや地域と連携した教育活動などを実施しています。こうした活動が評価され、2020年4月には「かながわSDGsパートナー」、同年11月には「さがみはらSDGsパートナー」に登録されました。

※7 出典：シェア 61.8%・富士経済「住宅建材 / 新築・リフォーム市場トレンドデータ便覧 2026」（2025 年度実績）
※7 富士工業グループは、レンジフード国内トップシェアメーカーです。（ODM 生産品を含む）

FUJIOHが取り組むSDGs

・FUJIOH感謝祭について

FUJIOH感謝祭は、日頃お世話になっている地域住民の皆様や社員、そのご家族を対象に開催しているFUJIOH主催のイベントです。毎年、相模原事業所と白河事業所でそれぞれ開催しており、地域との交流を深める場となっています。当イベントは東日本大震災をきっかけに被災地支援活動に取り組んでおり、来場者にご購入いただいた飲食物の売上を国内の被災地や地域へ全額寄付しています。2011年から2025年までの累計寄付額は、相模原事業所・白河事業所の両会場合わせて21,695,691円となりました。

また、地元の学生や団体にステージ出演の機会を提供しているほか、食品や子ども向け店舗の費用を会社が一部負担することで、来場者が気軽に楽しめるイベントづくりをおこなっています。さらに、相模原事業所では白河事業所が所在する中島村の野菜や米などを販売し、地域貢献につなげています。




相模原事業所でのFUJIOH感謝祭の様子

今後もFUJIOHは、「空気を変え、環境を変え、明日を豊かに変えていく。」をブランドビジョンに掲げ、ものづくりを通じた環境負荷の低減に加え、地域社会とのつながりを大切にした活動を推進し、持続可能な社会づくりに努めてまいります。

＜報道関係者お問い合わせ先＞
富士ホールディングス株式会社　コミュニケーションデザイングループ
TEL: 042-718-5661 E-MAIL: fujioh.cdg@fujioh.com